

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

埼玉県南児童相談所一時保護所 御中

2022年3月
株式会社ユーズキャリア

評価結果

事業所名	埼玉県南児童相談所一時保護所
理念	児童に安全な環境を与え、心身共に安心でき、危険から守られる生活環境を保障する。 児童は個人として尊重され、いかなる虐待・偏見・差別もないよう公平に処遇され、児童集団での暴力やいじめから守られ、伸び伸びとした生活ができるよう配慮される。職員は、児童の福祉に最良の効果をもたらすよう配慮を行い、誠心誠意尽くす。
基本方針	安心・安全な環境の提供 基本的生活の指導 子どもの性格・特徴・能力・成長等の把握 子どもの学力に応じた教育・学習指導

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
評価実施期間	令和4年2月15日から令和4年3月25日
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none">●一時保護所自己評価シート、児童へのアンケートに基づき総合的に評価する。●各評価項目は、判断基準と評価の視点・ポイントに基づき評価する。判断基準の評価は○、△、×の3段階で行う。判断基準の評価結果に基づき、総合的に64項目で構成する評価項目をs、a、b、cの4段階で評価する。●評価ランクの考え方 s：優れた取組みが実施されている（他の一時保護所が、参考にできるような取組みが行われている状態） a：適切に実施されている（よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態） b：できている（aに向けた取組みの余地がある状態） c：できていない（b以上の取組みとなることを期待する状態）

I 子ども本位の養育・支援

項目	評価	判断基準1	判断基準2	判断基準3	判断基準4	判断基準5	判断基準6
No.1 子どもの権利について、子どもに対して適切に説明されているか	a	○	○				
No.2 子どもの意見等が尊重される仕組みがあるか	a	○	○				
No.3 保護開始にあたり、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか	a	○	○				
No.4 保護期間中に、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか	a	○					
No.5 保護解除について、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか	a	○	○	○	○	○	
No.6 保護解除に向けて子どもに対して必要な支援を行っているか	a	○	○	○	○		
No.7 外出、通信、面会、行動等は適切に行われているか	a	○	○	○	○		
No.8 被措置児童等の虐待防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか	a	○	○	○			
No.9 子ども同士での暴力等の防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか	a	○	○	○			
No.10 思想や信教の自由の保障が適切に行われているか	a	○					
No.11 性的なアイデンティティへの配慮が適切に行われているか	b	△					
No.12 子どもとの関わりにおいて、子どもが安全感・安心感・信頼感を持てる養育・支援を行っているか	a	○	○	○	○		
No.13 子どものエンパワメントにつながる養育・支援を行っているか	a	○	○				
No.14 子どもからの聴き取り等にあたり、子どもへの配慮や説明などが適切に行われているか	a	○	○				

◆コメント

【優れている点】

- ・それぞれの年齢に合わせた『一時保護所生活のしおり』を作成し、大切なことやきまり、一日の流れと生活の注意点、時間割、知っておいて欲しいことについて説明している。
- ・未就学児には必ず保育士をつけて対応している。
- ・廊下に意見箱を設置し、先生に直接言えないことなどを汲み取るしくみがあり、意見箱用紙の活用の仕方について説明している。訪問調査時に確認した際、多くの用紙が入っており、意見などは職員で検討し反映しており、「意見を受入れてくれうれしかった」との声が聞かれている。
- ・面会を希望するケースも少なくなく、希望があれば職員からケースワーカーに伝え、いつでも相談に応じている。
- ・被措置児童の虐待防止については年4回チェックリストを作成し、外部研修を含む職員研修が定期的に行われ、虐待防止に取り組んでいる。
- ・地域がら、外国籍の子どもがおり、言葉や食習慣、日課等、コミュニケーションの取り方や給食業者と連携して対応している。受け入れ時に愛用していたぬいぐるみを持って来てもらうなど心情を察し、ねぎらいの言葉をかけ、安心してもらえるよう配慮をしている。

【改善や工夫を期待したい点】

- ・LGPTについて、これまでケースがないとのことであるが、子ども自らが知らせず、入所してから気付く場合が想定され、どのような対応を行うかについて、あらかじめ検討しておくことが望まれます。

II 一時保護の環境及び体制整備

項目	評価	判断基準1	判断基準2	判断基準3	判断基準4	判断基準5	判断基準6
No.15 一時保護所としての設備運営基準は遵守されているか	b	△	○	△	△		
No.16 一時保護所は、個性が尊重される環境となっているか	b	△	△	○			
No.17 一時保護所内の生活環境が適切に整備されているか	a	○	○	○	○	○	○
No.18 管理者としての役割が明確になっており、その責務が全うされているか	a	○	○	○			
No.19 一時保護所として、必要な適切な職員体制が確保されているか	b	△					
No.20 各職種の役割や求められる専門性・能力を考慮した人員配置が行われているか	a	○	○	○			
No.21 情報管理が適切に行われているか	a	○	○	○	○	○	
No.22 職員の専門性の向上及び意識共有のための取り組みが適切に行われているか	a	○	○	○	○		
No.23 職員間での情報共有・引継等が適切に行われているか	a	○	○				
No.24 児童福祉司との連携が適切に行われているか	a	○	○				
No.25 職場環境としての法令遵守や環境改善に取り組んでいるか	a	○	○	○			
No.26 医療機関との連携が適切に行われているか	a	○	○				
No.27 警察署との連携が適切に行われているか	a	○	○	○			
No.28 施設や里親等との連携が図られているか	a	○					
No.29 子どもの養育・支援を適切に行うために、必要な関係機関との連携が適宜行われているか	a	○	○				

◆コメント

【特に優れている点】

- ・生活環境は清潔に保たれており、リラックスできる環境も整えられている。公園が隣接しており、窓からは公園が見渡せ閉塞感はない。
- ・情報管理面では子どもが事務所内に立ち入らないようにし、無人になる時には施錠するなど、県の規定に従い、適切に管理している。
- ・職員は各種の研修を受けており法令順守に向け厳しく管理されている。

- ・児童相談所の同一建物内に設置されており、児童福祉司およびケースワーカーとは日常的に連携している。又、記録もオンラインで同時に確認できるようになっている。
- ・職場環境の整備に配慮し法令遵守に努め、個々に年休の消化や勤務状況のバランスを考慮した勤務表により休暇が取りやすくする工夫をしている。

【改善や工夫を期待したい点】

- ・多くの子どもが一時保護所での生活を余儀なくされ、定員超過が常態化している。その中で安全確保を第一として支援を行うために日々努力されており、現状の中で様々な工夫をしている。プライバシー保護に配慮した居室空間を確保し、一人ひとりの状況に応じた適切な支援や落ち着いた生活ができる適切な環境の整備が望まれるが(No.15・16)、既存建物での改善や法的基準内での対応は難しい面があると思われる。
- ・人員の確保も難しい面があると思われるが、専門職については特に適正な職員配置が望まれる。(No.19)

*一時保護所の対応でなくケースワーカーにかかる項目については児童相談所の対応として総合的な判断を行った。

Ⅲ 一時保護所の運営

項目	評価	判断基準1	判断基準2	判断基準3	判断基準4	判断基準5	判断基準6
No.30 一時保護の目的に即した理念・基本方針となっているか	a	○	○				
No.31 一時保護所の年度単位での事業計画の策定や目標設定を行っているか	a	○	○	○	○		
No.32 緊急保護は、適切に行われているか	a	○	○				
No.33 一時保護所における生活面のケアは、適切に行われているか	a	○	○	○			
No.34 レクリエーションのための環境やプログラム等が適切に提供されているか	a	○	○	○			
No.35 食事が適切に提供されているか	a	○	○	○	○	○	
No.36 子どもの衣服は適切に提供されているか	a	○	○	○	○		
No.37 子どもの睡眠は適切に行われているか	a	○	○				
No.38 子どもの健康管理が適切に行われているか	a	○	○				
No.39 子どもの教育・学習支援が適切に行われているか	b	△					
No.40 未就学児に対しては適切な保育を行っているか	a	○	○				
No.41 家族等との面会や、家族等に関する情報提供等は適切に行われているか	a	○	○	○			
No.42 子どもの性的問題に対して、適切な対応が行われているか	a	○	○	○	○		
No.43 他害や自傷行為を行う可能性のある子どもに対して、適切な対応を行っているか	a	○	○	○			
No.44 無断外出を行う子どもに対して、適切な対応を行っているか	a	○	○	○			
No.45 重大事件に係る触法少年に対して、適切な対応を行っているか	a	○	○	○			
No.46 身近な親族等を失った子どもに対して、適切な対応を行っているか	a	○	○	○			
No.47 被虐待児を受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか	a	○	○				
No.48 障害児を受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか	a	△	○	○			

No.49 健康上配慮が必要な子どもを受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか	a	○	○				
No.50 無断外出の防止に努めるとともに、発生時の対応は明確になっているか	a	○	○				
No.51 災害発生時の対応は明確になっているか	a	○	○	○			
No.52 感染症の予防に努めるとともに、発生時の対応が明確になっているか	a	○	○				
No.53 一時保護所の運営・業務に関する基本的な対応方針や手順は明確になっているか	a	○	○	○	○		
No.54 一時保護所としての質の向上を行うための仕組みがあるか	a	○	○	○	△		

◆コメント

【特に優れている点】

- ・事業計画の策定や目標設定ではコロナ禍で制限のあるなか、行事やレクリエーションなど児童の希望を反映した計画が作成されている。レクリエーションでは週1回、近隣の公園で思い切り体を動かせる機会がある。
- ・食事は栄養士が1ヶ月の献立を立て、職員がチェックしており、月1回の給食会議を開催している。食物アレルギー児の対応(お盆の色、テープで明示)にも十分に配慮している。コロナ禍により黙食としているが、手作りケーキで誕生会を開催している。
- ・感染症予防(コロナ)については、本人および周辺の感染状況を確認し一時保護所外、本館の1室を利用して対応し、事業所内に持ち込まないよう留意している。その他、マニュアルに沿った感染症対策を行っている。
- ・学習指導においては、経験豊富な教員歴のある学習指導員が配置され、充実した集団授業を展開している。また個々の学力に応じたマンツーマンによる個別学習を行い、学習意欲や学力の向上を図っている。

【改善や工夫を期待したい点】

- ・学習支援においては在籍校との連携が難しい状況もあり、学習指導員による対応やプリント等を使用している学習が主となっている。元より学習する環境でなかったり、基礎的な学力が身につけていないなど、子どもの状況特性、学力に配慮した支援が必要であり、どのような学習を展開することが有効かを協議し、可能な限り在籍校や担任との連携を図り、学習環境の改善に取り組むことが求められる。(No.39)
- ・質の向上を行う仕組みについて、日常の養育・支援の場で常にPDCAサイクルを実施しているが、一時保護所の質の向上という視点においては、第三者評価等の結果を見直し、評価対象年でなくても、当該評価基準を把握し、より多くの職員が自己評価することで、質の向上を目指せるよう、事業所全体での取り組みとなっていくことを期待したい。(No.54)

*一時保護所の対応でなくケースワーカーにかかる項目については児童相談所の対応として総合的な判断を行った。

IV 一時保護所における子どもへのケア・アセスメント

項目	評価	判断基準1	判断基準2	判断基準3	判断基準4	判断基準5	判断基準6
No.55 保護開始にあたって、子どもや子どもの家庭に関する情報等が適切に把握されているか	a	○	○				
No.56 保護開始にあたり、関係機関等と連携して総合的なアセスメントを行い、支援方針を決定しているか	a	○	○				
No.57 援助指針に沿った個別ケアを行っているか	a	○					
No.58 一時保護中において、子どもの変化に応じた支援方針の見直し等が行えているか	a	○	○	○			
No.59 一時保護中の子どもについて、行動観察が適切に行われているか	a	○	○				
No.60 観察会議が適切に実施されているか	a	○	○	△			

◆コメント

【特に優れている点】

- ・保護開始に当たり、ケースワーカーと連携し保育所や学校などから情報を収集し、子どもの家庭に関する情報の把握に努めている。
- ・関係機関等と連携し、総合的なアセスメントにより個別援助指針を策定し、指針に基づく個別ケアが行われている。
- ・担当者による行動観察が適切に行われ、児童福祉司、担当者等が参加の観察会議を月2回行い、子どもの状況や変化に応じて指針の見直しを行っている。

V 一時保護の開始及び解除手続き

項目	評価	判断基準1	判断基準2	判断基準3	判断基準4	判断基準5	判断基準6
No.61 保護開始にあたり、必要な支援が適切に行われているか	a	○	○				
No.62 一時保護中の子どもの所持物について、適切な対応が行われているか	a	○	○	○			
No.63 保護解除にあたり、関係機関等に対し、必要な情報が適切に提供されているか	a	○	○				
No.64 保護解除にあたり、子どもの所持物について、適切な対応が行われているか	a	○	○				

◆コメント

【特に優れている点】

- ・一時保護中に必要な日用品や着替えを持っていない子どもについては、受け入れ初日に支給または貸与している。子どもの所持物については所持品簿を作成し、適切に管理されている。
- *一時保護所の対応でなくケースワーカーにかかる項目については児童相談所の対応として総合的な判断を行った。

判断基準一覧

- 1-1 子どもの権利について、子どもの年齢や理解に応じて、分かりやすく説明しているか
- 1-2 子どもの権利が侵害された時の解決方法を説明しているか
- 2-1 子どもの意見・要望・苦情等が適切に表明されるような配慮を行っているか
- 2-2 子どもの意見を尊重して一時保護等の質の向上を図る取組みが行われているか
- 3-1 一時保護の理由や目的、一時保護所での生活等について、子どもの年齢や理解に応じて分かりやすく説明し、理解を得ているか
- 3-2 不服申し立ての方法等について、保護者・子どもに示しているか
- 4-1 保護期間中に、適宜子どもに対して、現状や見通しについて説明をしているか
- 5-1 一時保護の解除にあたっては、子どもの意向、意見や気持ちを十分に聞いているか
- 5-2 一時保護解除について、伝える時期に十分に配慮しているか
- 5-3 子どもや保護者等の意見等を踏まえ、復帰時期、復帰後の生活等について十分に検討しているか
- 5-4 家庭復帰ができない場合、理由、その後の生活の見通し等を十分に伝え、子どもが納得できるよう対応しているか
- 5-5 家庭復帰ができない場合、児童養護施設の見学や里親に会えるようにしているか
- 6-1 家庭復帰に対する子どもや保護者等の心理状態に配慮しつつ、子どもや保護者等の意見を聴取しながら、復帰時期、復帰後の生活等について検討しているか
- 6-2 子どもが年齢に応じて SOS を出せるよう、エンパワメントを行っているか(幼保職員への SOS、児童相談所全国ダイヤルの使い方の練習など)
- 6-3 里親委託や施設入所等に移行する子どもには、新たな養育場所に関する情報提供、心のケア、移行の必要性の説明等を行っているか
- 6-4 家庭復帰後も、相談や支援をしていくことを分かりやすく伝えているか
- 7-1 外出、通学、通信、面会に関する制限は、子どもの安全の確保が図られ、かつ一時保護の目的が達成できる範囲で必要最小限となっているか
- 7-2 外出、通信、面会等に関する制限を行う場合に、子どもの安全確保のため必要である旨を子どもや保護者に説明しているか
- 7-3 外出、通信、面会、行動等に関する制限を行う場合に、理由や経過等を記録しているか
- 7-4 外出、通信、面会、行動等の制限を行っている子どもがいる場合には、必要のない子どもが制限されていないか
- 8-1 被措置児童等虐待があった場合に、すぐに職員に相談できること、児童相談所等に通告・届出ができることについて、あらかじめ子どもに説明しているか
- 8-2 万一、子どもの権利が侵害される事態が生じたときの対応は適切に行われているか
- 8-3 被措置児童等虐待の防止に努める取り組み等を行っているか
- 9-1 子ども同士での権利侵害がある場合は、すぐに職員に相談することをあらかじめ伝えているか
- 9-2 子ども同士での権利侵害がある場合に、すぐに対応できる体制を確保しているか
- 9-3 子ども同士での権利侵害など、子どもの健全な発達を阻害する事態の発生防止のための取組みを行っているか
- 10-1 文化、慣習、宗教等による食習慣や日課の違いなどを尊重した対応をしているか
- 11-1 性的なアイデンティティに配慮した対応をしているか
- 12-1 一時保護の受入れ可否を子どもの安全の視点で判断しているか
- 12-2 子どもが安全感や安心感、信頼感を持てる保護や療育を行っているか
- 12-3 全ての子どもが、被害を受けているまたコミュニケーションに問題がある可能性を考慮した、通常以上に配慮したケアが行えているか
- 12-4 プライバシーに配慮すべき場面では、適切な対応を行っているか

- 13-1 「あなたは大切な存在である」ことを言葉・行動でメッセージとして伝えているか
- 13-2 表現の機会を多く作り、それを受け止められる体験を通して、自己表現を促しているか
- 14-1 子どもからの聞き取りにあたっては、子どもの人権等への配慮を十分に行っているか
- 14-2 子どもから聞いた話を、職員間及び担当児童福祉司と共有することを説明しているか
- 15-1 子どもの保護ができる場が用意できているか
- 15-2 開放的環境における対応が可能となっているか(一時保護所内での開放的環境の確保・委託一時保護の活用等)
- 15-3 一時保護所の設備及び運営基準は、児童養護施設について定める設備運営基準を遵守しているか(適切な監査等を受けているか)
- 15-4 プライバシーに配慮した居室空間が提供されているか
- 16-1 束縛感がなく、個別性が尊重される環境となっているか
- 16-2 必要な子どもに対し、個室を提供できる環境があるか
- 16-3 温かい雰囲気であり、安心し b: できている(aに向けた取組みの余地がある状態)
- 17-1 日常的に清掃等がされ、衛生 c: できていない(b以上の取組みとなることを期待する状態)
- 17-2 家庭的な環境となるような工夫がされているか
- 17-3 生活環境として必要な設備や什器備品等が整備されているか
- 17-4 必要な修繕等が行われているか
- 17-5 生活場面の中で、どんな外景色が見えるのか
- 17-6 外部からの視線に対する配慮が行われているか
- 18-1 管理者が一時保護所の管理・運営をリードするための環境が整っているか
- 18-2 管理者のリーダーシップのもとでの管理運営が行われているか
- 18-3 スーパーバイズができていますか
- 19-1 職員配置は、児童養護施設について定める設備運営基準以上であるか
- 20-1 各職の役割や権限、責任が明確になっているか
- 20-2 専門性を要する役割には、必要な能力等を有する職員が配置されているか
- 20-3 相談援助活動の一貫性を保つよう努めているか
- 21-1 個人情報適切に取り扱われているか
- 21-2 情報の重要性や機密性を踏まえた管理を行っているか
- 21-3 書類や記録等が適切に管理・更新されているか
- 21-4 子供に関する情報について、外部機関と共有する必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得ているか
- 21-5 情報管理に関する職員の理解・周知の取組みを行っているか
- 22-1 一時保護に従事する者として、守るべき法・規範・倫理等を全職員が理解するための取組みが行われているか
- 22-2 職員の専門性の向上を図るための計画的な取組みが行われているか
- 22-3 職員一人ひとりの育成に向けた取組みが実施されているか
- 22-4 職員間での指導・育成を行う仕組みがあるか
- 23-1 職員間での情報共有や引継等の仕組みがあるか
- 23-2 職員間で共有・引継する情報の内容は適切か
- 24-1 一時保護所は、児童福祉司と密接な連携が保てる範囲に設置されているか
- 24-2 入退所時や入所中の調査、診断、支援等について、児童福祉司・児童心理司やその他の各部門と十分な連携を図っているか

- 25-1 適正な就業状況が確保されているか
- 25-2 職員が働きやすい職場環境づくりの取組みがなされているか
- 25-3 福利厚生施設の充実に取り組んでいるか
- 26-1 必要な場面で、医療機関からの協力が得られているか
- 26-2 子どもの状況に応じ、児童福祉司や生活支援担当者、児童心理司、医師などのチームケアを行える体制があるか
- 27-1 警察署との連携が日頃から行われているか
- 27-2 警察の面接等に当たっては、子どもの成長・発達状況や心身の負担に十分配慮するよう、警察と十分に調整を行っているか
- 27-3 子どもに対し、警察が面接等を行う場合には、可能な限り協力しているか
- 28-1 移行前に、子どもが安心感を持てるように配慮しているか
- 29-1 必要な関係機関との連携を行う仕組みがあるか
- 29-2 関係機関とのネットワークを有効に活用できているか
- 30-1 理念・基本方針が職員に周知されているか
- 30-2 一時保護の目的(安全確保・アセスメント)に即した理念・基本方針となっているか
- 31-1 事業計画が策定されているか
- 31-2 事業計画に基づく取組みが実施されているか
- 31-3 事業計画の策定と評価、見直しの仕組みがあるか
- 31-4 策定にあたって、児童の意向や職員の意見、地域の福祉ニーズ等を反映できる仕組みがあるか
- 32-1 閉鎖的環境での保護期間が必要最低限となるよう適切に判断する仕組みがあるか
- 32-2 緊急保護を行うにあたり、子どもへの説明が行われているか
- 33-1 個々の子どもの状態にあわせて、生活全体の場面にて生活面のケアを行っているか
- 33-2 日課構成は適切か
- 33-3 一時保護所での生活を通して、徐々に生活習慣が身につくよう支援しているか
- 34-1 レクリエーションプログラム、自由に遊びのできる空間、読書や音楽鑑賞等を楽しむことのできる環境が提供されているか
- 34-2 子どもの年齢を考慮の上、スポーツ活動及び室内遊戯等を計画し、子どもの希望に応じて参加させるよう配慮しているか
- 34-3 必要に応じ、事故防止に留意しつつ、野外活動等を実施することにより、子どもの安定化等に取り組んでいるか
- 35-1 1日3食の食事が提供されているか
- 35-2 食事は衛生が確保されているか
- 35-3 食事アレルギーや個々の子どもの状態等に配慮した食事が提供されているか
- 35-4 おいしく食事をするための配慮がなされているか
- 35-5 食事は、温かい雰囲気の中で提供されているか
- 36-1 衣服の清潔は保たれているか
- 36-2 衣習慣が身につくように支援しているか
- 36-3 発達段階や好みにあわせて子ども自身が選択できるようにしているか
- 36-4 適切な衣服を貸与できるか
- 37-1 就寝・起床時刻は適切か
- 37-2 睡眠環境は適切か
- 38-1 子どもの健康状態が把握されているか
- 38-2 子どもの健康状態により、必要に応じて診察や処置を行っているか

- 39-1 子どもの状況や特性、学力に配慮した教育・学習支援を行っているか
- 40-1 保育所運営指針による保育を基本としているか
- 40-2 発達の個人差、生活環境の差異、経験の差異を考慮した保育が行われているか
- 41-1 子どもの年齢に応じ、家族に対する支援や対応に関して説明を行っているか
- 41-2 子どもに対して行った情報提供や説明の内容について、関係者間で共有されているか
- 41-3 家族との面会等は、子どもの安全と安心、子どもの意思や気持ちを踏まえ総合的に判断されているか
- 42-1 受入時には、多職種によるカンファレンスを行っているか
- 42-2 子どもの問題に応じた治療教育、性教育などの支援を行っているか
- 42-3 一時保護所の子どもの中で、性的問題行動が起きた場合には、適切な対処が行われているか
- 42-4 PTSD 症状、訴えがみられた場合は、迅速に児童心理司、医師に報告し、適切な対応を行っているか
- 43-1 他害や自傷行為等の逸脱行為がある又は行う可能性のある場合には、その背景のアセスメントを実施しているか
- 43-2 アセスメントに基づく対応方針に応じたケアが行われているか
- 43-3 他害等の逸脱行動には毅然と対応しているか
- 44-1 無断外出を行う又は行う可能性のある場合には、その背景のアセスメントを実施しているか
- 44-2 無断外出が発生した場合に、その子どもに対して適切な対応を行っているか
- 44-3 無断外出があった場合には、その子ども以外に対しても適切な対応を行っているか
- 45-1 一定の重大事件に係る触法少年と思料される子どもの一時保護にあたっては、必要な手続き、支援体制の確保が行われているか
- 45-2 重大事件の場合には、刺激の少ない部屋で安心させる対応を行っているか
- 45-3 重大事件の場合には、他児との関係に関する配慮を行っているか
- 46-1 身近な親族が亡くなったことを適切な時期に適切な方法で伝えているか
- 46-2 葬儀等に参加させているか
- 46-3 必要によりグリーフケアやモーニングワークを行っているか
- 47-1 受入を行った場合に、必要な支援が行える環境・体制があるか
- 47-2 対応方針に応じたケアが行われているか
- 48-1 受入を行った場合に、必要な支援が行える環境・体制があるか
- 48-2 対応方針に応じたケアが行われているか
- 48-3 障害を有する子どもの受入にあたり、他の子どもに対する障害への理解を深めるなどの取組みがなされているか
- 49-1 受入を行った場合に、必要な支援が行える環境・体制があるか
- 49-2 対応方針に応じたケアが行われているか
- 50-1 無断外出があった場合の対応は明確になっているか
- 50-2 無断外出の未然防止に努めているか
- 51-1 火災等の非常災害に備え、具体的な避難計画を作成しているか
- 51-2 避難訓練を毎月1回以上実施しているか
- 51-3 日頃から、消防署、警察署、病院等の関係機関との連携に努め、緊急事態発生時に迅速、適切な協力が得られるように努めている
- 52-1 感染症の発生を防ぐための対策が講じられているか
- 52-2 感染症が発生した場合の対応が明確になっているか
- 53-1 マニュアル等が作成され、職員全体で共有や確認できる体制があるか
- 53-2 マニュアル等の内容の実効性を高めるための取組みが行われているか
- 53-3 マニュアル等の内容に基づき、実施されていることを確認する仕組みがあるか
- 53-4 マニュアル等の内容について見直し等が行われているか

- 54-1 自己評価が定期的に行われているか
- 54-2 外部評価の仕組みがあり、定期的に行われているか
- 54-3 自己評価や外部評価の結果を踏まえた質の向上のための取組みが行われているか
- 54-4 職員間での共有や職員一体となった取組みが行われるようになっているか
- 55-1 一時保護を行うにあたり、子どもの家庭の状況、心身の状況、性格、成長・発達等の状況を十分に把握できているか
- 55-2 集団生活をさせても問題がないかの確認が行えているか
- 56-1 チームで情報共有しながらアセスメントが行われているか
- 56-2 総合的なアセスメントに基づく個別援助指針(援助方針)が策定されているか
- 57-1 個別援助指針(援助方針)に基づく個別ケアを大前提とした子どもの養育・支援が行われているか
- 58-1 積極的に子どもと関わり、細かなやりとりを通じた子どもへのアセスメントを行っているか
- 58-2 子どもの変化に応じた支援が行われているか
- 58-3 必要以上に長期間の保護が行われていないか
- 59-1 子どもの全生活場面について行動観察を行っているか
- 59-2 子どもの行動観察の結果を記録しているか
- 60-1 職員は、業務引継を適切に行っているか
- 60-2 原則として、週1回は観察会議を実施しているか
- 60-3 観察会議の結果を、判定会議に提出しているか
- 61-1 子どもや保護者の状況等に応じた必要な支援が行われているか
- 61-2 日用品、着替え等を持っていない子どもに対しては、個人として所有できる生活に必要なものを支給又は貸与しているか
- 62-1 子どもにとって心理的に大切な物については、一時保護期間中に子どもが所持できるよう配慮しているか
- 62-2 一時保護期間中、子どもが所持する物については、記名しておく等子どもの退所時に紛失していないよう配慮しているか
- 62-3 所持物の中に麻薬、覚せい剤や危険ドラッグ等がある場合には、直ちに警察に連絡しているか
- 63-1 一時保護の継続判断を行うために、児童相談所等に必要な情報の提供をしているか
- 63-2 一時保護中に得られた子どもに関する情報を適切に引継いでいるか(成育歴、強み・長所、継続的な取組等)
- 64-1 子どもの所有物は、一時保護解除時に返還しているか
- 64-2 子ども以外の者への返還は、適切に行われているか